

2025年度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 16 日

1. 職名・氏名 教授・山本昌幸

2. 学位 学位 博士（生物資源学）、専門分野 水産資源学
授与機関 福井県立大学、授与年 2006 年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 海洋生産環境学（2単位） 主たる配当年次等 2年
② 内容・ねらい 海洋の生物生産過程を理解するために基本となる一次生産や物質循環、さらに、藻場や干潟などの海洋生態系の特徴を理解する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 生物生産過程については、基本的な考え方が身につけられるような講義を心がけ、講義の前日までには講義資料をGCに掲載することで、予習・復習がスムーズにできるようにした。さらに、身近な内湾域での環境問題などについて、研究面からのアプローチだけではなく、行政がどのような施策に基づいて、一般市民や漁業者と対応してきたかといった、これまでの県庁（行政、研究員）での経験について実例をあげながら説明した。また、講義ごとに学生の疑問点を吸い上げ、次の講義までに資料を作成し、丁寧に説明した。
① 生態遺伝学（2単位） 主たる配当年次等 3年
② 内容・ねらい 水圏生物の多様性研究における生態遺伝学的アプローチや水産育種の実例と重要性について理解する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 遺伝学の基本的な知識だけではなく、近年、急速に普及してきた環境DNAやゲノム編集法についても基礎的な考え方を概説した。また、講義の前日までには講義資料をGCに掲載することで、予習・復習がスムーズにできるようにした。さらに、現在、国や地方の研究機関が行っている研究例を紹介した。
① 生物学実験（1単位） 主たる配当年次等 2年
② 内容・ねらい 魚類の年齢形質となる鱗や耳石などの観察と魚の基本的な構造を理解する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 マアジ、キダイといった身近な魚の鱗や耳石を魚種ごとに比較することで、魚種によって年齢形質が大きく異なることを理解してもらうように心がけた。さらに、魚の構造については、カタクチワシ煮干しを用いて、脳や胃、心臓などの部位を分類することで、身近に魚の構造を知ることができることを体験してもらった。煮干しを用いることで、実習であっても、後日、自宅で復習することができるものと考えている。
① 水圏環境学実験（2単位） 主たる配当年次等 2年
② 内容・ねらい 異なる海域での動物プランクトン採集を通じて、プランクトン採集法の基本的な考え方やプランクトンの基本的な観察方法、海域での種組成の違いを理解する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 インターネットなどの情報から、プランクトンを目・科レベルまで同定する技術を身につけてもらうように工夫した。
① 水圏保全遺伝学実習（2単位） 主たる配当年次等 3年
② 内容・ねらい 水田での動物プランクトン採集を通じて、動物プランクトンの同定方法を理解する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 フィールド演習を通じて、水田の動物プランクトン相に興味を持ってもらうように心がけた。また、顕微鏡観察でどのような点に注視してプランクトンを同定すれば良いのか指導した。
① 科学英語Ⅰ（1単位） 主たる配当年次等 3年
② 内容・ねらい インターネットを用いた科学英語の検索方法、アブストラクトの基本的な形式、図表作成で気を付けるべきポイントを理解する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 プレースメントによって、レベル別に3つのクラスに分け、レベルに合った科学英語に関する演習を行った。また、水圏生物や実験器具など、今後、科学論文を読むうえで重要な英単語の演習も加えて行った。
① 科学英語Ⅱ（1単位） 主たる配当年次等 3年
② 内容・ねらい インターネットを用いた科学英語の検索方法、アブストラクトの基本的な形式、図表作成で気を付けるべきポイントを理解する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 実習を通して、卒論や興味のあるテーマの論文を検索し、そのアブストラクトを和訳し、直訳ではなく、読みやすく理解しやすい日本語に修正する指導を行った。また、図表作成についても具体例を挙げながら、説明を行うように工夫した。
① 基礎演習（1単位） 主たる配当年次等 3年
② 内容・ねらい 興味のあるテーマの論文を読み、さらに他者の発表では、積極的に質問をし、議論に参加して専門分野および異分野の研究内容を科学的に理解する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 論文選定については、可能な限り学生の自主性を尊重している。ただし、他者への説明（プレゼンテーション）資料作成時については、ディスカッションを通して、論文の理解度をあげるように心がけた。
① 専攻演習（2単位） 主たる配当年次等 4年
② 内容・ねらい 専門分野の論文を読み、他者に紹介することで、その内容を深く理解し、さらに、海洋生物や地球化学に関する最新の知見に関して興味を持ち、議論する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 プレゼン資料作成および発表において、他者に分かり易く・筋道が通ることを意識するように指導した。また、他者の発表について、積極的に質問できるように工夫した。
① 卒業論文（8単位） 主たる配当年次等 4年
② 内容・ねらい 論理的な問題解決力と実行力を身につける。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 現場を知ってもらうために、学外の方（雲龍丸、小浜魚市場、福井県水産試験場、京都府海洋センターなど）と積極的に交流して調査することを心掛けた。また、研究目的を理解し、その目的を考えながら実験を行うように指導した。
① 水圏生態学（2単位） 主たる配当年次等 M1 年
② 内容・ねらい 水圏生態系の生産構造・食物網、近年問題化している温暖化やマイクロプラスチックなどの水圏生態系への影響について概説する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 社会人の学生もいることからオンデマンド講義とした。コミュニケーション不足を補うため、講義後、レポートを提出してもらい、それに関して 2 週間以内にコメントをつけてフィードバックした。
(2)その他の教育活動
内容

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
① 著書	【0 本】
② 学術論文（査読あり）	
1. Temperature-driven changes in spawning characteristics of the East Asian common octopus <i>Octopus sinensis</i> in the central Seto Inland Sea, Japan. <u>Yamamoto M.</u> , Fujiwara M., Takasago K., Akai N., Ryman N. (2025)..Fish. Oceanogr., 29, 1-9. (2025 年 8 月) 2. Reproductive biology of female East Asian common octopus (<i>Octopus sinensis</i>): oocyte development, maturity staging, and follicular structure morphometry. Kobayashi Y., <u>Yamamoto M.</u> (2025). Fish. Sci., 91, 1315-1326. (2025 年 6 月) 3. Linking early growth rate and recruitment variability of Japanese anchovy (<i>Engraulis japonicus</i>) in the central Seto Inland Sea, Japan. Yoneda M., Fujita T., <u>Yamamoto M.</u> , Nakamura M., Takahashi M., Kono N., Tomiyama T. (2025). Fish. Oceanogr., 29, 1-13. (2025 年 11 月) 4. Size-dependent resource allocation to reproduction in Japanese anchovies (<i>Engraulis japonicus</i>). Yoneda M., Katayama S., <u>Yamamoto M.</u> , Kono N., Tsuzaki T., Tanaka H. (2025). Sci. Rep., 15, 15057. (2025 年 2 月) 5. Potential mechanism underlying the decline in kuruma prawn <i>Penaeus japonicus</i> : effects of loss of large females on reproductive traits and recruitment success. Sato T., Sugaya T., Sakiyama K., Takashima T., Hamada M., Kotani N., Ueta Y., Yoshioka T. Ando D., Nakao H., Tokumaru Y., <u>Yamamoto M.</u> , Morita S., Yamamoto S., Sekiya S., Kimura S., Tsutsumi K., Watanabe A., Utsumi K., Nagata M., Nakagawa A., Sukanuma T., Yamamoto K., Shirakashi S., Sakaji H., Hano T., Ohkubo N., Ito K., Adachi K., Inoue N. (2025). Mar. Ecol. Prog. Ser., 767, 79-99. (2025 年 5 月)	
	【5 本】
③ その他論文（査読なし）	
1. . 日本水産学会水産環境保全委員会「琵琶湖における環境変動と漁業生産の変化：瀬戸内海と比較して考える」. <u>山本昌幸</u> . 瀬戸内海における水産資源の動態：温暖化/ 貧栄養化の影響を受けている資源水産学会誌, 2025 ; 140-141.	
	【1 本】
④ 学会発表等	
*1.気候変動に伴う暖冬がもたらすマダイの越冬域の変化と漁獲量の増加. 令和 7 年度瀬戸内海研究会議 瀬戸内海の環境保全・創造研究ワークショップ, 神戸. <u>山本昌幸</u> . 2025. (2025 年 12 月) (招待講演) *2.瀬戸内海における漁獲組成の変化と今後. 第 32 回 2025 年瀬戸内海研究フォーラム in 香川, 高松. <u>山本昌幸</u> . 2025. (2025 年 9 月) (招待講演) *3.瀬戸内海におけるマダコ産卵期の変化. 2025 年瀬戸内海水産環境研究集会, 松山. <u>山本昌幸</u> . 2025. (2025 年 8 月) 4.クルマエビの資源減少メカニズム：雌の小型化による再生産への影響. 2025 年日本ベントス学会・日本プランクトン学会 合同大会. 仙台. 佐藤 琢・菅谷琢磨・崎山和昭・高島 景・濱田真悠子・小谷奈央・上田幸男・吉岡拓也・安藤大輔・中尾拓貴・徳丸泰久・ <u>山本昌幸</u> ・森田将伍・山本宗一郎・関谷真一・木村聡一郎・堤 憲太郎・渡邊昭生・内海訓弘・永田みのり・中川彩子・菅沼倫美・山本桂伊・白樫 真・阪地英男・羽野健志・大久保信幸・伊藤克敏・足立賢太・井上誠章. 2025. (2025 年 9 月) *5.テキストマイニングによるサワラの TAC 管理の課題の見える化. 令和 7 年度日本水産学会春季大会. 神奈川. <u>山本昌幸</u> . 2025. (2025 年 3 月) 6.小浜湾の栄養塩環境の変遷：越境大気由来の窒素沈着量の増減が及ぼす影響. 2025 (令和 7 年) 年度水産海洋学会研究発表大会. 福井. 河原美颯・杉本 亮・ <u>山本昌幸</u> . 2025. (2025	

年 11 月) 7.マダコの卵巣および生殖輸管の発達過程に関する組織学的. 2025 年 (令和 7 年) 度日本水産学会春季大会, 神奈川. 小林靖尚・高砂 敬・ <u>山本昌幸</u> . 2025. (2025 年 3 月)	【7 件】
⑤ その他の公表実績	【0 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】 ・ 特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議 瀬戸内海の環境保全・創造に係る研究助成金「瀬戸内海東部における海洋生物の食物網変動の検討 (研究代表者)」(令和 2025~2027 年) ・ 科学研究費助成事業「カタクチイワシの繁殖能力に及ぼすボトムアップ食物連鎖の影響評価: 日本海での適用 (基盤 C, 研究代表者, 24K09057)」(2024~2026 年度) ・ 環境研究総合推進費「干潟・藻場等生態系間の遺伝的連結性 (研究分担者: S-23-2)」(令和 2024~2028 年度) 【学内】 ・ 戦略的課題研究推進支援「若狭湾におけるマダコの産卵期と肉眼観察による成熟過程の分類法の確立」(代表者) ・ 学会開催支援事業「2025 年度水産海洋学会研究発表大会」	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
・ 水産学会漁業懇話会委員 (2023.3~現在に至る) ・ 2025 年度水産海洋学会研究発表大会 (福井県) 大会委員 事務局長 ※福井県観光連盟「コンベンション開催助成金」650 千円 ・ 水産海洋研究 評議員 (2023.3~現在に至る) ・ 水産海洋研究 理事 (2025.3~現在に至る) ・ 水産海洋研究 活性化委員 副会長 (2021.2~現在に至る) ・ 水産海洋研究ナイトセッション「現場×教育×未来: フィールドからラボで紡ぐ水産海洋学の知と使命」(2024 年 10 月 31 日, 福井県国際交流会館) 企画委員 ・ 「瀬戸内海水産環境研究集会」(2025 年 8 月 26-27 日, 愛媛大学) 研究集会代表者 (愛媛大学沿岸環境科学研究センター共同研究・研究集会事業)	

5. 地域・社会貢献活動

①	-4 有識者「中央ブロック資源評価（ニギス太平洋系群，イカナゴ伊勢・三河湾系群，マアナゴ伊勢・三河系群，シャコ伊勢・三河系群）」，（国研）水産研究・教育機構，2023 年 4 月～現在に至る（2025 年 3 末まで「外部有識者」）
①	-4 有識者「トラフグ伊勢・三河系群資源評価」，（国研）水産研究・教育機構，2023 年 4 月～現在に至る（2025 年 3 末まで「外部有識者」）
①	-4 有識者「キンメダイ太平洋系群資源評価」，（国研）水産研究・教育機構，2023 年 4 月～現在に至る（2025 年 3 末まで「外部有識者」）-4 有識者「北海道ブロック資源評価（21 系群）」，（国研）水産研究・教育機構，2024 年 4 月～現在に至る
①	-4 有識者「日本海ブロック資源評価（15 系群）」，（国研）水産研究・教育機構，2024 年 4 月～現在に至る（2025 年 3 末まで「外部有識者」）
①	-2 外部有識者「有明海漁業振興技術開発事業に係る魚種別検討会(甲殻類)」，福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県，2024 年 6 月～現在に至る
①	-4 有識者「トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群資源評価」，（国研）水産研究・教育機構，2025 年 4 月～現在に至る
①	-4 企画委員「特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議」（2025 年 5 月～）
①	-4 大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成制度選考委員「大阪湾広域臨海環境整備センター」（2025 年 5 月～）
②	水産庁委託事業「令和 7 年度豊かな漁場環境推進費」分担研究者，瀬戸内海の貧栄養化によるカタクチイワシ等の小型魚類の加入量変動機構の解明，2025 年度
②	水産庁委託事業「令和 7 年度資源評価事業」分担研究者，2025 年度
⑥	福井県立大学公開講座「海洋生物資源学科を体験してみよう！2025～ようこそアクアサイエンスの世界へ！生物，環境，食と健康の研究紹介～」Zoom，2025 年 6 月 25 日
⑥	福井県立大学公開講座「知ってる？福井の魚，こんなに豊か！定置網で獲れる小浜の地魚 60 種大公開」Zoom，2025 年 7 月 18 日，25 日
⑥	県大担当者「若狭湾協同調査連絡会」（大学，海上保安庁，水産試験場等の 9 機関において，若狭湾及び周辺海域の海象調査に関する情報の共有を行う），2024 年 10 月～現在に至る

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
・海洋生物資源臨海研究センター運営連絡会議担当 ・Oceans' X, TOEIC 担当 ・地域連携センター会議担当 ・学科将来計画委員会 ・クラス担任・副担任（次年度） ・初年次教育担当
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など
・福井県立大学海洋生物学部 X の投稿：31 回（小浜魚市場の情報など）